



12月は『石路(つわぶき)』

You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

Vol.31 2021.12.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

石路の花(つわぶき)

冬に向かうこの時季、栽培できる植物が減り、それでも庭に華やかさを…という折に力を発揮するのが『つわぶき(石路)』だということ、その黄色い花と、濃い緑色で艶のある葉のサポート効果も大いにもあって、単なる穴埋めではなく、むしろ雰囲気や派手に、賑やかにしてしまおうのだそう。しかも、一〇月から十二月にかけて咲くこの花は、花持ちがよく、長期間花を楽しめるので、公園や庭園などで活躍し、欠かせない存在になっていくらしい。

西日本の一部の地域では、山菜として茎をアク抜きして食べられているとのことであるが、どこかでもしかして食べさせられたことがある可能性も否定はできないもの、意識して食べた記憶はない。

《花言葉》

「謙譲」「困難に負けない」
 いかにも地味だが、力強い(しぶとい)イメージはうかがえるし、海岸に自生するというが、“ありふれた”感がなかなか味わい深い。

【昭和の沁みる唄】

浅草しぐれ

多くの人が唄っていたらしい、ここでは三島敏夫でいつてみよう。オンタイムでは随分気持ちの悪い唄い方をするものだという以外何も響かなかったが、思えばハワイアンの人であったから、あの独特な歌い方が当然であり、それが狙いでもあったのだろう、しかし当時の私にはとにかく沁みるものではなかったということだ。それが半世紀の時を経て、偶々ぶつかってみると、繰り返し聴いても飽きないほど沁みてくる…ことになる。

作詞	上野	たけし
作曲	上野	たけし
唄	三島	敏夫 他

逢えば別れが
 悲しいものを
 逢えぬ淋しさ
 あなた偲んで
 どこか似たよな
 ひと目逢いたい
 夜の浅草 通り雨

尚更つらい
 仲見世通り
 うしろ影

【こんな映画を観てきた】

『黒いチューリップ』 La Tulipe Noire

-1963・仏 伊 西-

監督: クリスチャン・ジャック

主演: アラン・ドロン(ジュリアン、ギョーム)

フランス革命時、貴族を襲い、人呼んで“黒いチューリップ”と怖れられていた…というが、ドロンの“格好いい”黒装束以外にほとんど記憶が無い。
 この映画の12年後、これが土台となったか？今度は息子の喜ぶ顔が見たいとドロン自身が『アラン・ドロンのゾロ』を製作・公開に及んだ。まことに気持ちの悪い…はなしではないか？!

藤圭子のカバーのあとにこの三島敏夫を聴くとまた一味も二味も違って、またその繰り返して夜も更ける。一杯いだけとあってはただただ聴き入るのみで。三島の『錦糸町ブルース』というものもなかなか沁みる。当時は土地に馴染みなく(特に日が暮れてから)、ほとんど接することがなかった唄だったけれど：現代(いま)に通用する歌詞では毛頭ない(と思う)が音符にしっかりと載った一文一字一文字がやけに沁みてきてしまうのだ。